



人には爆発的に頑張る時がある！

校長 白井 克昌

小笠原諸島の西之島近くの火山噴火によってできた新島が、溶岩でみるみる大きくなり、西之島と陸続きになりました。500mあった距離はあっという間になくなり、今も成長しています。火山活動は生命と生活を脅かすものですが、一方で圧倒的な自然の力に畏敬の念を感じることも確かです。塵も積もれば山となるという言葉がありますが、現実には塵が積もってできた山はありません。大規模な火山の噴火によってできるのです。こつこつと地道な努力を積み重ねることは大事です。その上で、人には火山活動のように爆発的に頑張らなければならない時があると思います。まさに3年生の一般受験する人はその時です。1、2年生も勉強に部活動に爆発的に頑張る時があります。是非、この時を逃さず、自分の目標達成に向けて一心不乱に取り組んでほしいと願っています。

## 1 修学旅行を実施

2年生の修学旅行 in 沖縄が1月10日から13日まで3泊4日で実施されました。沖縄の自然、歴史・文化に触れるとともに、沖縄戦を通して平和について考え理解を深めることができました。もともと沖縄は、赤いハイビスカスの花が咲く、武器のない、平和な美しい島でした。しかし、太平洋戦争の末期、昭和20年3月、沖縄に米軍が上陸して沖縄戦が始まりました。日本で当時行われた最大規模の地上戦です。その悲惨さは言葉になりません。

また、民泊体験を通して、沖縄の農漁村独特の生活文化に触れ、人との絆の大切さや自然との関わりについて体験的に学ぶことができました。伊江島の家庭に宿泊し、島の家族と寝食を共にして、一食に食事を作ったり、沖縄伝統の三線を教えてもらったりするなど、深く交流することができました。



## 2 防災部（防災活動支援隊）

1年生の防災部員2名が本校代表として、1月12日から14日まで、全国防災ジュニアリーダー育成合宿に参加してきました。この合宿は、これからの防災・減災の担い手である中高校生を中心に、阪神・淡路大震災の教訓を学び、今後の災害に備え、その取組や内容を日本全体に広げていくことを目的に行われています。

## 3 男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、1月7日（日）東京都高等学校男子バスケットボール新人戦本大会に出場しました。強豪校の東海大学菅生高校と対戦し、69対77で結果は負けましたが大健闘しました。



【1月グラウンド改修工事が完了し、新たに人工芝になりました！】

先日、品川区立荏原平塚学園の校長先生より大崎生についてお褒めの言葉をいただきました。交通指導員さんから、「毎朝、大崎高校の生徒さんが自転車で学校の前を通るとき、元気よく『おはようございます！』と挨拶をしてくれるので気持ちよく仕事ができます。是非、大崎高校に伝えてほしい。」というものです。誠に素晴らしい大崎生の振る舞いです！大崎生全員が周囲の人々に高校生らしい爽やかな挨拶で、温かな風を送り続けてほしいと思います☆彡



## 2 学年 修学旅行実施について

2 学年 原澤直貴

平成30年1月10日～13日にかけて第2学年の修学旅行が行われ、無事全行程を終了することができました。今回の修学旅行の行先は「沖縄県」、そして昨年度と同様「民泊」を行いました。高校生活の中で最も大きな行事でもあるため、生徒達は出発日が近づくにつれ、どこか落ち着かない様子でした。事前に教員、そして生徒は沖縄県のことや民泊について学習し、準備万端の状態で行学旅行に臨みました。

那覇空港に無事到着後、クラスごとに分かれ、壕（ガマ）と平和祈念公園・資料館を訪れ、平和学習を行いました。生徒全員がガイドの方の話に真剣に耳を傾け、資料を読んでいました。その中で涙を流す生徒も見られました。生徒は授業などで戦争の悲惨さ、平和の尊さについて何度も学んではいますが、やはり「本物」を自分の目で直接見て、肌で感じる事ができたのは、これから戦争のない未来を創造していく責任をもっている彼らにとってかけがえのない経験になったと思います。



1日目の夜から2日目、3日目の午前中にかけて、生徒は伊江島の民家に班ごとに宿泊し、その家の家族の一員として家業などを行い、交流を深める「民泊」を行いました。最初は生徒の表情にも緊張が見られましたが、2日目の昼には次第に打ち解け、民家の方々に「おじい」「おばあ」と呼び、また家業体験中には学校では見せないような明るく充実した表情を見せてくれました。

生徒たちにとって、東京では見ることもできないような「城山」からのパノラマやエメラルドグリーンの海、そしてハイビスカスの苗を植えたり、伊江牛に餌をあげたりする体験は一生の思い出となったはずです。

最後に民家の方々と別れるときには涙を流しながら「高校を卒業したら絶対にまた来るね」と何度も民家の方に言っている生徒が多く見られました。



3日目の午後～最終日にかけては美ら海水族館や首里城、国際通りに向かいました。いずれの場所においても生徒は教員が思っている以上のリアクションをとってくれました。

また、積極的に学びながら、一生懸命友人との思い出を残そうとしている様子でした。気分が高揚している中でも、時間やマナーを守っていたのはさすが大崎生だと感じました。



修学旅行全体を振り返ると、すべての行程を問題なくこなすことができました。それは教員同士の連携はもちろんですが、「生徒」の主体的・自律的な行動があったからこそだと思います。

修学旅行を通して2年生は1年生のときに比べ、驚くべき速さで成長しているのだと実感することができました。また、今回の修学旅行の核である「民泊」体験についても、大多数の生徒が非常に楽しく過ごせたようで、教員の目から見ても伊江島の人々との交流や新鮮な体験を楽しむ生徒の生き生きとした表情が大変印象的でした。

間もなく2年生は3年生になり、「進路実現」のために「頑張る」ことが求められます。その時に、彼らを支えてくれる「思い出」に今回の修学旅行がなったのであれば、修学旅行の担当者として幸いです。これからも学校全体で生徒たちの活動を見守り、支えていきたいと思ひます。



## 「卒業に向けてひとこと 3年生へ」

もうじき



### 3-A 担任 廣見 「人間万事塞翁が馬」

卒業に向けてカウントダウンの時期ですね。進路が決定し準備に余念がない者、これから受験を控えている者、来年に向け捲土重来を期している者、様々だと思います。この時期は人生の大きな節目ですが、上手くいったと思って浮かれていると足元をすくわれたり、失敗したと落ち込んでいても、置かれた場所で前向きに努力を続けていると思わぬ成功が転がり込んで来たりします。まさに「人間万事塞翁が馬」ですよ！それぞれの立場でやるべきことを怠らないことです。ファイト2015年度生！

### 3-B 担任 阿部加緒里 「1日1日を大切に」

この時期の心境は人それぞれだと思います。4月からの生活が決まって期待でいっぱいの人、まだまだ受験の最中で不安でいっぱいの人。今まで行事や部活などの同じ目標に向かって頑張ってきた友人と、今の気持ちを共有できなくて苦しい時期を迎えている人もいるかもしれません。毎日通った学校に行く日にちが減り、自分で時間の使い方を決めることができる時期です。進路が決まった人も、これからの人も今自分がしていることが、4月からの自分の力になるように、1日1日を大切に過ごしてください。

### 3-C 担任 河野 郁子

Don't walk behind me; I may not lead. Don't walk in front of me; I may not follow. Just walk beside me and be my friend. Albert Camus

いよいよ卒業を迎える皆さんへ いつの頃だったか大学生の時を思い出すと、とても楽しかったこと、生涯の友と呼べる友達と巡り合えたことを思い出します。これからいろいろな道へ進むであろう君たちに一言：自分が心から楽しく付き合っていける、悩みの相談できる友達ができるチャンスがまためぐってきます。新しい出会いを大切にしてください。

### 3-D 担任 荒川 基幸 「0学期」

「高校3年3学期＝新（学生 or 社会人）生活0学期」です。いつものように決まった時間に登下校し、授業を受けることはないこの時期ですが、勝手気ままな日々を過ごしてはいませんか？人間誰も規則正しい生活に慣れるのはとても大変ですが、ダラダラ生活が染みついてしまうのは、ほんの瞬間です。

“自由な時間が与えられた時に何をして、どう過ごし、どのように自分を充実させられたか”で、学校や仕事のある通常の生活に戻った際、その人の生き方、人間性に大きな差が出ます。年齢を重ねて大人になるにつれ、個人の生活態度に口を挟む（挟んでくれる？）人はどんどん減っていきます。「この時期の自己管理、大丈夫ですか？」

### 3-E 担任 市川 典央「私が最も大切にしていること」

人生で一番大変なことは続けることだと私は思います。いま受験中の人は、机に向かうのも辛い日、時間があると思います。そんな時、机に向かうことができるかどうか、私たちの人間力に大きく出るのだと私は思います。日頃から、3年生のみなさんには強くなって欲しいと思い、この3年間接してきました。何でもよいので、やりきった、これだけは誰にも負けないというものを行動によってつかみ取って3月10日を迎えて欲しいです。応援しています！

### 3-F 担任 伊堂寺 豊 「克己心（こっきしん）」

3年前に大崎を受験し、推薦倍率（男子2.66 女子3.73）、一般倍率（男子1.25 女子1.38）を突破して大崎生になった皆さん、3年間はどうか？充実した高校生活を過ごした人、多少の後悔がある人、270人それぞれの思いがあると思います。「克己心」とは、「自分の欲望を抑える心」や「甘い自分や弱い自分（己）に打ち克（か）つ力。」です。思い通りにいかないことを、周囲の人や環境のせいにしても何も変わりません。ほとんど全ては自分しだいです。皆さんは、まだ何にだってなれる可能性があります。自分がやりたいこと、なりたいことを真剣に必死に己に負けずに努力してください。まずは、残りの高校生活、今やれることを必死にやりましょう。君たち3年生ならできます！頑張れ！

### 3-G 担任 澤本和憲 「Present」

この仕事をしているとよく自分の高校時代のことを思い出します。でも 仮に今 高校時代に戻れたとしても おっさんの自分にはきっと当時以上の充実感は味わえないでしょう。それは 高校時代には 若さゆえの失敗があり 未熟ながらも一生懸命な頑張りがあったから あんなにも輝いていたのだと今の自分が実感しているからです。未知で未熟であるからこそ 人生はおもしろいのだと思います。みんなはこれから新たな道を歩んでいきます。そこには様々な困難が待ち受けていると思いますが 毎日無い道前進 どんな時も「今」を楽しく乗り越えていってください。まずは 一度しかない もう戻れない 残されたわずかな高校生活を大切に過ごしてください。

